

2026年度 慶應義塾大学 一般選抜  
文学部 外国語(英語)  
出題意図および解答(解答例)

A

<出題意図>

長文を読解できる語学力と論理的な思考力と記述力を測る設問である。

<解答(解答例)>

1. (D) synonymous

2. (ア) arbiter

3.

(解答例1)

言語は思考を決定するくびきではなく、思考を様々な方向へ軽く押す風のようなものだとする穏健な考え方を指す。これは強く言語は思考を決定とする言語決定論とは異なり、むしろウォーフ自身の元々の慎重な考え方に近い見解である。(109字)

(解答例2)

言語が思考を一方的に決定するという強い決定論ではなく、言語ごとの語彙・比喩・表現慣習が注意や分類をゆるやかに方向づけることで、世界の捉え方に小さな差を生み、それが積み重なるとみる立場で、ウォーフ自身の元々の考え方に近い。(110字)

4.

(解答例)

コミュニケーションの道具である以上に、言語は抽象的なものを具体化し、時間のように根本的な概念を理解するための枠組みを与えてくれる。

5.

(解答例)

かつて普遍的だと思われていた言語的特徴——たとえば時制や人称代名詞、場合によっては名詞と動詞の区別でさえ——も、より多くの言語を精査すると欠けている例が見つかってきた。

6. (b) multiply

7.

(解答例 1)

ロシア語における明るい青と暗い青の語の区別や、ジャハイ語の持つ抽象的な匂いの語など、言語によって細かな区別をするものがある。(62字)

(解答例 2)

露語は青を 2 語で分け、アイマラ語は未来を背後に置き、ジャハイ語は匂いを抽象語で命名する等、微少な差が累積して思考を形づくる。(62字)

そのほか、本文で取り上げられている英語以外の言語の例を 2 つ以上あげて説明すればよい。

B

<出題意図>

語学力だけではなく、思考の質とそれを英語で記述する力を測る設問である。内容は自由であるが、評価に際しては、明示した評価基準も勘案される。

以上